# 2019 (令和元) 年度

事業報告書

学校法人 海星女子学院

# 1 法人の概要

## (1) 建学の精神

海星女子学院は、「真理と愛に生きる」を建学の精神としてイエス・キリストの人生観・世界観・教育観に基づくキリスト教の理念を根本として設立されました。設立母体であるマリアの宣教者フランシスコ修道会は世界宣教を使命としている修道会です。

戦後の荒廃した神戸に呼ばれた当時の修道会管区長マリー・ムスチェド・カンシーは、新しい時代を生きる女子教育に大きな夢を描き、「神様のことを教えたい。正しい人間として成長して欲しい。良い教育を与えたい。」と望み、1951年(昭和25年)青谷に学校法人海星女子学院を設立しました。以後、幼稚園から大学までの総合学園として、一貫した創立精神のもと、キリスト教的価値観を土台とする全人教育の場の実現を目ざしています。

# (2) 学校法人の沿革

	にあった高等聖家族女学校(旧制)の経営を引き継ぐ。
この学校が前	
	身であり、ここから本学院の歴史がはじまる。
昭和 26 年 新学校教育法	に則り、学校法人 海星女子学院が設立認可され、六
甲山麓の現在	地(神戸市灘区青谷町)に小学校・中学校・高等学校を
開設。	
昭和27年 海星女子学院	マリア幼稚園認可。
昭和30年 短期大学英語	科開設。
昭和 40 年 大学文学部開	設、英文学科・仏文学科設置。
昭和 41 年 短期大学英語	科が大学英文学科に発展解消され、廃止。
平成2年 小学校・中学	校・高等学校講堂棟を改築。
平成 11 年 短期大学の募	集を停止し、その定員を大学に移す。また、学校法人
創立 50 周年記	己念事業として大学図書館棟を新築。
平成 16 年 大学の学科を	国際英語メディア学科及び心理こども学科に改組。
平成 20 年 大学を英語キ	ャリア学科、観光ホスピタリティ学科及び心理こども
学科の3学科	に改編し、学部名を現代人間学部に変更。
平成 24 年 大学 観光ホ	スピタリティ学科を募集停止。
平成 25 年 中高 南館の	耐震改修及び内部全面改修と西館を改築。
平成 26 年 大学 英語キ	ャリア学科を英語観光学科に、名称変更
平成 28 年 幼稚園 園舎	を全面改築。
平成30年 中高 食堂・	ロッカー棟を改築。
令和元年 大学 本館耐	震改修。

# (3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
			平成20年4
			月に学科を
		現代人間学部	改編し、文
神戸海星女子学院大学	昭和40年1月	(英語観光学科)	学部から現
		(心理こども学科)	代人間学部
			に学部名称
			を変更
神戸海星女子学院高等学校	昭和26年3月	全日制 (普通科)	_
神戸海星女子学院中学校	昭和26年3月	_	
神戸海星女子学院小学校	昭和26年3月	_	
神戸海星女子学院マリア幼稚園	昭和27年1月	_	_

# (4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(2019年5月1日現在) (単位:人)

学校名	入学定員数	収容定員数	現員数
神戸海星女子学院大学	95	380	382
神戸海星女子学院高等学校	150	450	435
神戸海星女子学院中学校	150	450	426
神戸海星女子学院小学校	50	300	286
神戸海星女子学院マリア幼稚園	100	300	278

# (5) 教職員の概要

(2019年5月1日現在)(単位:人)

	区分	本部	大学	高等学校	中学校	小学校	幼稚園	計
教	本務	0	22	20	25	19	17	103
員	兼務	0	46	8	18	9	12	93
職	本務	4	16	4	3	2	3	32
員	兼務	1	5	1	1	1	2	11

# (6)役員の概要

# 定員数 理事 8名、監事 2名

(2019年5月1日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常勤	
理 事	森田 和子	常勤	カトリックセンター長
理事	小野 礼子	常勤	大学長
理事	糸井 孝幸	常勤	中学校・高等学校長
理事	鈴木 良孝	常勤	小学校長
理事	澤井 育子	常勤	幼稚園長
理事	林 紘史	非常勤	
理事	井上 幸一	常勤	法人事務局長
監事	小原 義雄	非常勤	
監事	荒井 俊朗	非常勤	

# 【参考】(2020年5月1日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常勤	
理事	森田 和子	常勤	カトリックセンター長
理 事	小野 礼子	常勤	大学長
理 事	糸井 孝幸	常勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常勤	小学校長
理事	澤井 育子	常勤	幼稚園長
理事	村田博	非常勤	
理事	井上 幸一	常勤	法人事務局長
監事	荒井 俊朗	非常勤	
監事	西村 繁秀	非常勤	

# (7) 評議員の概要

定員数 17名

# (2019年5月1日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校・高等学校校長
尾﨑 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
大岸 啓子	大学教授	澤井 育子	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
森田 和子	カトリックセンター長	山田 喜美子	
廣瀬 勝美	中・高教諭	林 紘史	
石倉 哲也	小学校教頭	梶田 行雄	
横田 和男	幼小中高 事務長	芝山 豊	
小野 礼子	大学長		

# 【参考】(2020年5月1日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校•高等学校校長
尾﨑 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	澤井 育子	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
森田 和子	カトリックセンター長	山田 喜美子	
廣瀬 勝美	中・高教諭	村田 博	
石倉 哲也	小学校教頭	梶田 行雄	
横田和男	幼小中高 事務長	芝山 豊	
小野 礼子	大学長		

## 2 事業の概要

## (1) 神戸海星女子学院大学

## 1. 学生募集、広報活動

# ① 学生募集

2019 年度の入学者数は、英語観光学科 74 名(編入学生 1 名を含む)、心理こども学科 36 名、合計 110 名であった。1 年次生では、英語観光学科 73 名(入学定員 45 名)、心理こども学科 36 名(同 50 名)、合計 109 名(同 95 名)、定員充足率は 114.7%(英語観光学科 162.2%、心理こども学科 72.0%)であった。前年度(2018 年度)は、編入学生 1 名(英語観光学科)を除き、英語観光学科 58 名、心理こども学科 39 名、合計 97 名、定員充足率 102.1%(英語観光学科 128.9%、心理こども学科 78.0%)で、三年連続して定員を上回る入学生を確保することができた。また、定員充足率も前年度より 12.6%上昇するという結果となった。ただし、心理こども学科に関しては、三年連続して定員を下回るという課題が残った。入学者が受験した入試をみると、英語観光学科の入学生 73 名(編入学生 1 名を除く)のうち、41.1%にあたる 30 名は A0 入試(13 名)、指定校推薦(3 名)、公募推薦(14 名、このうち 4 名は最終日程である 3 月 23 日の D 日程を受験)による入学者、58.9%にあたる 43 名は一般入試(23 名)、センター入試(20 名)による入学者であった。一方、心理こども学科の入学生 36 名のうち 80.6%にあたる 29 名が A0 入試(16 名)、指定校推薦(9 名)、公募推薦(4 名)による入学者で、一般入試及びセンター入試での入学者はそれぞれ 3 名、計 6 名で 16.7%に留まった。(残りの 1 名は留学生試験による入学者である。)

# ② 広報活動

#### (ア) オープンキャンパス

オープンキャンパスは、8回の個別相談型(ミニ)オープンキャンパスを含め、全16回(4月、6月各1回、7月3回、8月4回、9月、10月、11月各1回、12月2回、2月、3月各1回)開催した。来場者数は、高校生が367名、保護者が226名であった。前年度と比較すると高校生が11名、保護者が39名それぞれ増加した。来場者が最も多かったのは4月27日(土)のオープンキャンパスで、45組87名(高校3年41名、2年3名、既卒者1名、保護者42名)が来場、高校3年生41名のうち19名がA0事前面談を受けた。以下、8月25日(日)48組74名(高校3年24名(うち1名は保護者のみの参加)、2年18名、1年6名、保護者27名)、7月28日(日)42組73名(高校3年26名、2年10名、1年6名、保護者31名)、7月21日(日)39組66名(高校3年27名、2年11名、1年1名、保護者27名)、8月18日(日)32組52名(高校3年7名、2年14名、1年10名、学年不明1名、保護者20名)と続いた。

#### (イ) 高校訪問

専任教職員による高校訪問を4月、6月、10月、2月に行った。4月は入学者の出身高校のみの訪問で、6月、10月、2月は、それぞれ239校(前年度244校)を、アドミッションセンター課員を中心に専任教職員等35名で回った。

#### (ウ) 教員対象入試説明会

高校教員及び塾教員対象の入試説明会を5月17日(姫路:高校教員、塾・予備校)、21日(本学:高校教員)、28日(本学:塾・予備校)、30日(大阪:高校教員、塾・予備校)の計4回行った。5月17日は7校、21日は13校、28日は4校、30日は9校、合計33校(前年度38校)が出席した。

#### (エ) 出張授業・進学説明会

2019 年度は合計 133 件(前年度 147 件)の出張授業及び進学説明会に参加した。分野別では、「大学別・進学説明会」61 件(業者 55 件、私立大学展 3 件、高大連携 2 件、関西 16 女子大学 1 件)、「外国語・語学・国際関係」34 件(業者 28 件、高大連携 6 件)、「観光学」4件(業者 2 件、高大連携 2 件)、「保育・幼児教育・初等教育」19 件(業者 13 件、高大連携 6 件)、「心理学」15 件(業者 11 件、高大連携 4 件)であった。アドミッションセンター課員が中心となって担当したが、専任教員延べ39 名及び職員延べ3名も担当した。2019 年度は150 件を超える予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、2 月下旬以降開催予定の相談会がすべて中止となった。

#### (オ) その他

土曜進学相談会を29回(2018年度は42回)実施した。2018年度は42回実施したが、本館の耐震改修工事中の開催や、日曜日にオープンキャンパスが予定されている場合の前日土曜日の開催を取りやめたため、回数が減った。このほか、雑誌への記事掲載、大学案内パンフレット及びフライヤーの印刷、山陽電鉄ドア横ポスターの広告、神戸新聞「兵庫の大学へ行こう」企画への参加等を行った。

#### 2. 教育活動

# ① 英語観光学科

1年次生対象の「ホスピタリティ研修」を8月21日(水)に帝国ホテル大阪で行った。主な内容は、帝国ホテルの講師によるホスピタリティセミナー、ホテル内施設の見学、テーブルマナーと会食(フランス料理)であった。また、12月7日(土)10:00~12:00にアセンブリーホールで「Kaisei English & Tourism Festival」を開催した。学生運営スタッフ4名が中心となって行い、参加者105名、発表者は11組50名であった。1~4年次生が英語でプレゼンテーション、留学報告、研究発表等を行った。観光系の発表を含むフェスティバルにしたこと、オンラインアンケートを導入したことが新しい試みであった。2020年

2月24日(月)~29日(土)には、5泊6日(機中1泊を含む)の日程でベトナムのダナン及びハノイの「海外ツーリズム研修」を実施した。研修の目的は、観光領域の学び及び異文化理解の学びを深めることに加え、総合旅程管理者資格を取得することであり、資格取得のため、現地での研修に先立ち、「総合旅程管理研修」を2月5日(水)~7日(金)の3日間実施した。2年次生5名、3年次生11名、4年次生2名、計18名が参加した。新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた水際対策等を各国が強化しつつあり、実施の有無について外務省からの情報や企画を依頼したJTBの現地情報等をもとに検討した結果、実施することにし、参加者全員に日数分のマスクを配布し、感染予防の注意喚起を十分に行うなどして実施し、無事終了した。

#### ② 心理こども学科

神戸市灘区地域貢献子育で支援事業「海星子育でひろば」を 7月~12 月にかけて 7月 2回、10月 2回、11月、12月各 1回、計 6回本学で実施した。教員 2名、学生延べ 41名で行った。16組の親子が登録し、延べ 150名が参加した。また、 7月 18日(木)には「幼児教育指導法」「初等音楽 4」「保育内容の研究・健康」の連携授業として「たのしい遊びのプレゼント」と題した発表会を神戸海星女子学院マリア幼稚園で行った。さらに、 2年次生を対象に、子どもを知る機会を持つこと、学ぶ意欲を高めることを目的として六甲ファミリーまつり(灘区まちづくり課)、「キッズフェスティバル 2019」(大学コンソーシアムひょうご神戸)、青陽東フェスティバル(神戸市立青陽東養護学校)等のボランティア活動への参加を呼びかけ、 2年次生のほぼ全員がいずれかの活動に参加した。 2020年 2月 5日(水)の 15:30~18:00には、神戸海星女子学院講堂で「海星☆音楽フェスティバル」を開催した。  $1 \sim 4$ 年次生の延べ 70名がピアノ演奏、連弾、合奏、合唱等を披露した。

#### 3. 就職支援、就職内定状況等

#### ① 1~4年次の就職支援

1年次必修の共通科目「キャリアデザイン入門」は学科別に開講しているが、2019 年度は、学科教員担当の「将来のために今やるべきこと」及びキャリアセンター員担当の「本学のキャリア教育」という内容を追加した。また、2年次必修の共通科目「海星学 I」(春学期)及び「海星学II」(秋学期)では、「キャリアプログラム」をそれぞれ4回ずつ設けた。この中には、「卒業生によるピアサポート」も2回含まれている。3年次生には、正課外プログラムとして「3年次生対象就職サポートプログラム」を4月~2020年3月まで毎週火曜日4限に計30回実施した。キャリアセンターのほか、(株)サンソフト、(株)アイザック、(株)学情が担当し、インターンシップ、職場のマナー、書類対策、面接対策等についてのセミナーを行った。また、11月19日には4年次生による就職活動体験発表会、12月17日には外部講師による就職講演会を実施した。4年次生に対しては、キャリアセンター員による個別相談を全員に一人につき最低1回以上行った。

#### ② 教員採用試験対策講座、幼保就職対策講座

公立学校教員採用試験対策講座を5月~2020 年3月まで、また、幼保就職対策講座を4月~2020 年2月まで実施した。

#### ③ 就職内定状況

2019 年度の卒業者数は、2019 年 9 月卒業者の 3 名を含め、90 名(英語観光学科 43 名、心理こども学科 47 名)で、そのうち就職希望者数は 79 名(英語観光学科 38 名、心理こども学科 41 名)、就職内定者数は 74 名(英語観光学科 36 名、心理こども学科 38 名)、2020 年 4 月 8 日現在の 2019 年度就職内定率(就職内定者数/就職希望者数)は 93. 7%(英語観光学科が 94. 7%、心理こども学科が 92. 7%)である。就職を希望しない 11 名の内訳は、大学院進学者 2 名、専門学校進学者 2 名、国際交流基金での就業を目指す者 1 名、起業者 1 名、ワーキングホリデー参加者 1 名、アルバイト 3 名、すぐには働く意思がない者 1 名である。ちなみに、2016 年度に英検 2 級相当以上授業料免除を受けて入学した 9 名のうち、2 名は退学したが、7 名の就職内定率は 100%である。内定先は、大阪偕成学園高等学校(英語)、フィリピンマニラ日本人学校、御影インターナショナルこども園、マリアの園幼稚園(非常勤)、日本郵便(株)、ウェスティンホテル大阪、Globee Services SDN. BHD. マレーシアである。

#### 4. 生涯教育、地域交流・貢献等

#### ① 生涯学習講座

2019 年度は、「英会話」(初級、中級)、「フランス語会話」(初級〜準中級、中級)、「実践中国語」「ハワイのフラとハワイアンソングのテーマとなった神話・歴史・スポット」「関西文化に育まれた文学」「初心者のための伝統芸能入門」の8講座を開講した。8講座の受講者は合計 131 名であった。女性の受講者が全受講者の91.6%(120名)を占めたほか、年代別では60代が最も多く、全体の38.9%(51名)を占め、50代22.9%(30名)、70代22.1%(29名)、40代8.4%(11名)と続いた。本学の卒業生は16.0%(21名)であった。

#### ② 公開講座

第 31 回公開講座を大学祭開催日の 10 月 27 日(日) にアセンブリーホールで開催した。 講座の題目は「身体が心が嬉しくなるウエルネス」、講演者は神戸常盤大学保健科学部看護 学科教授で本学非常勤講師の柳本有二氏であった。来場者数は 77 名であった。

## ③ 学生主体の地域交流・貢献

「Kids English クラブ」(英語観光学科及び心理こども学科の学生 5 名)による神戸市立住之江公民館での児童英語講座「子ども英語 A」(小学校 1 ~ 3 年生対象)、「子ども英語 B」(小学校 4 ~ 6 年生対象)が 5 月~12 月までの土曜日に各 12 回開催された。また、

「1日講座」を神戸市立南須磨公民館で5月18日(土)及び6月15日(土)に、住之江公 民館で6月29日(土)及び11月30日(土)にそれぞれ実施した。さらに、「キッズ・イ ングリッシュ」の履修生と担当教員による英語活動の出前授業を本学の協定校である神戸 市灘区の美野丘小学校で例年通り5月~12月まで行った。 また、大学コンソーシアムひ ょうご神戸主催の「2019 年度学生災害ボランティア・ネットワークプログラム」に英語観 光学科の6名が参加し、8月31日(土)~9月1日(日)に倉敷市真備町でボランティア 活動を行った。同じく大学コンソーシアムひょうご神戸主催で 12 月1日(日)にこべっこ ランド(神戸市総合児童センター)で行われた「キッズフェスティバル 2019」には、心理 こども学科の2年次生9名が「バルルーン」(バルーンアート)で参加した。この催しには 全ブースの中で最も多い 150 名以上の来場者があった。さらに、フラ&タヒチアンダンス Pua Nani が 11 月 3 日 (日) に開催された「第 9 回灘区総合芸術祭」(灘区役所)、2 月 9 日(日)に行われた「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成活動報告会・交流会」 (灘区役所) に参加した。このほか、Chorus Stella Marisが10月6日(日) に特別養護 老人ホーム うみのほしの「うみのほし 秋まつり」に参加し、音楽部が12月21日(土)に 介護付き有料老人ホーム フォレスト垂水で行われた「クリスマス慰問コンサート」 及び 12 月7日(土)に開催されたカトリック社会活動神戸センター野宿者支援主催の「クリスマス チャリティーコンサート」に参加した。また、イラスト部は6月~3月まで月に2~3回 「六甲病院アートセラピーボランティア」に参加するなどして、灘区や神戸市といった地域 との交流や社会貢献を行った。

# ④ 教員による講演・研修会等

専任教員による講演は、神戸文学館 企画展記念講演(神戸文学館)、神戸市老眼大学 大学連携講座(神戸市生涯学習支援センター)、宝塚市市民カレッジ(宝塚市)、神戸市教育委員会保健部研究報告会講演「対応困難な児童とその親への対応について」等が行われた。また、研修会は、明石市教育委員会主催による幼稚園内の研修「気になる子どもたちへの関り」が明石市立江井島幼稚園、藤江幼稚園、花園幼稚園等で、「母子共依存への関り」が明石研修センターで開催されるなどした。

#### 5. グローバル人材育成に向けた取組

#### 語学留学

長期及び中期の語学留学に英語観光学科の学生 11 名が参加した。長期留学には2名が参加し、3年次生1名がイギリスのカンタベリー・クライスト・チャーチ大学に、2年次生1名がカナダのオカナガン・カレッジに留学した。後者の学生は、留学期間が4月末までであったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、オカナガン・カレッジが授業をすべてオンラインに切り替えたこと、カナダから日本への入国が困難になると予想されること等の理由から帰国を1か月早め、残りの授業については日本でオンライン授業を受けることになった。中期留学には、3年次生1名、2年次生8名、計9名の学生が参加した。留学

先は、オカナガン・カレッジ (3名)、カンタベリー・クライスト・チャーチ大学 (3名)、アメリカのレーン・コミュニティー・カレッジ (3名) であった。また、カナダのトリニティ・ウェスタン大学への短期留学には、3年次生1名、2年次生3名、計4名が参加した。

#### ② アシスタント・ティーチャー・インターンシップ

アメリカ カリフォルニア州トーランスの小学校で行われるアシスタント・ティーチャー・インターンシップに英語観光学科2年次生1名及び心理こども学科1年次生1名の2名が参加した。期間は2020年2月16日(日)~3月2日(月)までで、新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する直前に帰国したため、帰国後二週間の自宅待機を指示していたが無事であった。

#### ③ フランス サンローラン学園との交流

フランスのサンローラン学園の生徒 6名(及び引率教員 1名)が 10月 23日(水)~28日 (月)まで本学を訪れた。生徒たちは、本学で日本伝統文化の体験授業を受講したり、フランス語や初等音楽の授業に参加したり、本学の学生との交流会や姫路へのフィールドトリップに参加したりした。27日(日)には大学祭に訪れ、筝曲部や茶道部の発表等を本学の学生とともに楽しんだ。

#### 6. キリスト教関連行事

# ① 新入生オリエンテーション2、キリスト教研修Ⅰ、Ⅱ

5月10日(金)の大学行事日に $1\sim3$ 年次生を対象にしたキリスト教研修を3か所で一斉に実施した。「新入生オリエンテーション2」では、大塚国際美術館を訪問し、2年次生対象の「キリスト教研修 I」では、カトリック夙川教会で聖母マリアについて講話と歌を通して学び、3年次生対象の「キリスト教研修 I」では、神戸布引ハーブ園の森のホールでアシジの聖フランシスコについて講話とワークを通して学んだ。

#### ② 4年次研修

4年次生対象のキリスト教研修を 10 月 18 日 (金)  $\sim 19$  日 (土) に兵庫県立淡路夢舞台 国際会議場・ウェスティンホテル淡路において 1 泊 2 日で行った。講師は、三輪久美子氏、テーマは「与えられたいのちを生きる一喪失から生きる意味を考える」であった。

# ③ 学生クリスマスミサ、クリスマスキャロル

12月19日(木)の大学行事日に1年次生対象の学生クリスマスミサ(司式:アルフレド・セゴビア師)を聖堂で行った。ミサ後はクリスマスキャロルを行った。

#### 7. 大学改革関連

#### ① 中期計画の策定

改正私立学校法第45条の2第2項において大学を設置する学校法人は、施行日である令和2(2020)年4月1日までに中期的な計画を策定することが義務付けられたため、4月に中期計画策定委員会を立ち上げた。6月~9月まで計4回開催した委員会において中期計画案を作成し、10月23日開催の教授会、11月26日開催の常務理事会、12月12日開催の理事会の承認を得た後、12月12日開催の評議員会の諮問を経て「神戸海星女子学院大学中期計画2020~2024」が決定した。

#### ② 自己点検・評価における外部評価

2020 年 3 月 19 日 (木) に、神戸市灘区長 廣瀬万希子氏、神戸市水道局事業部東部センター所長 毛利憲士氏、株式会社近畿日本ツーリスト関西取締役営業本部長 松本知氏を外部評価委員として本学に招き、大学改革運営会議構成員 6 名と外部評価委員会を開催した。委員会では、「2019 (令和元) 年度 自己点検・評価報告書」に基づき、各委員会等の自己点検・評価の取組について報告を行った後、外部評価委員から意見等の提供を受けた。

#### ③ FD・SDの取組

FD・SD 委員会主催の「2018 (平成 30) 年度 自己点検・評価報告研修会」を 6 月 26 日 (水) の教授会後に行った。また、9 月 4 日 (水) 10:40~12:10 に教職員対象のハラスメント防止研修会を実施した。講師は NPO 法人アカデミック・ハラスメントをなくす会理事長の御輿久美子氏であった。さらに、9 月 18 日 (水) 13:00~16:45 に専任教職員等全員を対象にした SD 研修会を行った。目的は「大学が置かれている状況を理解し、本学の進むべき方向及び各々の果たすべき役割について考える」こと、講師は早稲田大学 教育・総合科学学術院教授 吉田文氏、テーマは「自ら道を選ぶ大学に向けて」であった。

#### ④ 教員評価

英語観光学科及び心理こども学科の教員は、それぞれの学科主任宛に、共通科目の教員は、 共通科目主任宛にそれぞれ人事考課表(担当職務の具体的遂行結果及びそれに対する本人 評価について記載したもの)を提出した。その後、学科主任及び共通科目主任が、所属教員 と個別面談を実施し、当該教員に対して下した評価を学長に提出した。学長は各主任との面 談の後、学長の評価結果を理事長に提出し、理事長が学長との面談の後、最終決裁を行った。

# ⑤ 高大連携

10 月7日付で兵庫県立宝塚西高等学校と協定を締結した。これで本学の高等学校の協定校は10校となった。

#### ⑥ 学内の教育改革に関する取組

学内の教育改革に関する取組について公募を行ったところ、学生相談室の学生利用の促

進を図るために、学生相談室に学生の関心を引くと予想される箱庭療法用の箱庭を設置するという案が採択され、上限30万円の支援を応募者グループ(心理こども学科専任教員及び保健センター員)に行った。その支援金により学生相談室に箱庭が設置された。

#### 8. 教員の研究活動

『神戸海星女子学院大学研究紀要』第 58 号及び『神戸海星女子学院大学教育研究紀要』 第 3 号を 2020 年 2 月に発行した。また、『言語文化研究』第 4 号(神戸海星女子学院大学 言語文化研究所)を 3 月に発行した。

#### 9. 施設関係

本館耐震改修工事を7月30日(火)~9月29日(日)の期間で実施した。

#### 10. その他

#### ① 保護者会

4月1日(月)の入学式後に、新入生の保護者を対象とした保護者会を聖堂で開催し、本 学の建学の精神と教育理念、キリスト教研修、国際交流、奨学金制度、キャリア支援等につ いての説明を行った。

# ② 教員懇談会

4月8日(土)に、専任教員及び非常勤講師による教員懇談会を本学で開催し、本学の教育方針等を確認した後、昼食会で専任教員と非常勤講師との交流を図った。

# ③ 教育懇談会・後援会総会

在学生の保護者・保証人を対象にした教育懇談会・後援会総会を6月22日(土)の午後に本学で行った。教育懇談会では、就職実績とキャリア支援の説明、学生の研究・研修の発表を行った。後援会総会では、2018年度事業報告、2019年度の事業計画及び役員選出等が行われた。引き続き、保護者の希望者と教員との個人面談を実施した。

## (2) 神戸海星女子学院中学校・高等学校

1. 中学校生徒募集と広報活動について

## ① 中学校生徒募集

2020年度入試は、昨年に引き続きA日程を4教科型と3教科型に分けて実施した。 出願に関して、願書郵送からネット出願に変更した。昨年は、3教科受験が可能になったことで、A日程・B日程共、出願者数が約3割増えたが、今年度は受験者人口の減少、 共学人気、他校(夙川、雲雀丘など)の躍進等で、出願者数は前年比1割減であった。 また、今年度もA日程からの辞退者が5名(昨年12名)あった。入試方式の多様化により、 辞退者数の予測はB日程も含め、さらに難しくなった。今後、辞退者の傾向分析を行うことで、より正確な予測に基づく定員確保を目指したい。

#### ② 広報活動

2018年度より始めた教員による塾への訪問を2019年度も引き続き実施した。ネット出願の導入など入試方式の変更を始めとして、本校での様々な取組の説明、ポスターやリーフレットの配布等多くの教員の協力を得て情報の伝達及び塾との関係強化に注力した。また、校外の相談会や私学連合会主催、業者主催の合同説明会、塾主催の説明会等に積極的に参加した。一方、校内では従来通り学校説明会を2回、オープンスクールを1回実施、学院祭および体育祭を学校見学者の小学生と保護者に開放した。また、初めての試みとして、広報部主導のもと、塾(創学ゼミナール)主催の学校見学会を本校で実施した。総じて、学校の内外において今まで以上に意欲的に情報の発信を行った。外部メディアを利用した広報は、受験情報雑誌等への広告掲載を中心に実施した。昨今、広報・宣伝の媒体がネットにシフトしている傾向に鑑み、新聞広告への掲載を減らし、読売オンラインを活用したネットによる広報活動を新たに導入した。また、専門の業者に依頼して、学校紹介のビデオ製作を行った。生徒を主体としたストーリー性のある映像で、生徒の息吹が伝わる素敵な"作品"に仕上がった。広報の宣伝領域に関しては、2018年に引き続き、明石以西まで領域を広げ、広範囲にわたって広報活動を展開した。

# 2. 学校納付金等について

2019年度の授業料に関しては、中学1年生から高校1年生まで66万円、高校2年及び高校3年は経過措置のため年額63万6000円であった。教材費預かり金については、2019年度卒業生は残額(2,378円)が生じたため、事前に書面で通知の上、保護者に返金した。また積立金に関しても、27,653円の余剰金が発生、先述の教材費残額と共に保護者に事前通知の上返金した。

#### 3. 教育活動について

#### ① 1学期早期授業開始

新学期の早期開始により、1学期の授業日数を確保するとともに各定期試験間の授業時間数を均等化することを目的に、2015年度より1学期の始業式を4月初めに実施しているが、2019年度もその流れを踏襲し、4月3日高校入学式、中・高始業式(4日中学入学式)とした。

# ② 教育課程

「カトリック学校としての本校の教育を継続して行う」ことと、「生徒の希望する進路の実現」を2つの柱として教育課程を編成している。中学の教科学習においては、基礎・基本の定着を図るとともに、中学3年生からは、高等学校の学習内容も取り入れた発展的内容を含む教育課程を編成し実施した。中学3年の英会話とフランス語の選択による少人数の授業も引き続き開設した。

#### ③ 数学、英語での習熟度別授業・少人数授業の実施と成績不振者対策

中3数学においては習熟度に応じた3クラス編成(標準2クラス・発展1クラス)、中3英語は少人数授業の更なる充実を図るべく、均等3分割編成とした。高1と高2の英語については、標準・発展の習熟度別2クラス編成、高2数学に関しては、理系と文系に分けた上で、それぞれ標準・発展に2分割し、より一層生徒個人の学力に見合った効果的な授業を実施した。また中学生に関しては、定期考査ごとに、成績不振者に対して英語と数学の補習を行い、低学力生徒の危機意識を高めると共に、基礎学力の定着を図った。

#### ④ 学級編成について

各学年のクラス数については、2011年度に中学校4クラス化が完成以降、変更はしていない。設備、教員など諸事情を考え、2019年度も中学4クラス、高校3クラスの編成とした。

#### ⑤ 特別活動、宿泊行事

特別活動として、文化的・体育的・宗教的学校行事、学級活動、生徒会活動、部活動、奉仕的活動を行い、心身の健全な発達を図った。中学1年生は、6月に「イングランドの丘」(南あわじ市)への遠足を実施した。11月には(財)神戸市民福祉振興協会「しあわせの村」での1日福祉体験学習を2クラスずつ2回に分けて行った。中学2年生は、体験合宿を6月に「休暇村蒜山高原」で実施し、青陽東養護学校との交流を11月に本校で行った。受け入れは7回目である。養護学校との交流は概ね順調にプログラムを消化、双方にとって実り多き交流となった。中学3年生で行っている1泊2日の異文化理解合宿に関しては、昨年と同様大阪南港にある「大阪アカデミア」で行ったが、食事面及び委託している「ベルリッツ」のプログラム等幾つかの点で課題を残した。高校1年では3学期に大塚国際美術館見学を行い、キリスト教文化を体感させることができた。

高校3年では5月に「ユニトピア篠山」にて1泊2日の静修合宿を実施した。また、中 1~高2の各学年の静修は例年通り3学期に校内で行った。

#### ⑥ 高Ⅱ修学旅行

グループBは、予期せぬ大型台風接近のため、予定の日程を一日繰り上げて出発したが、 結果的に大過なく無事に旅行を終えることができた。生徒にとって極めて有意義な旅行 であった。

# ⑦ 海外研修

オーストラリアとの交換プログラムについては、セント・クレア校からの受け入れを行った。新たな海外研修プログラムとして、中学3年生と高校1年生対象に「イギリス語学研修」(行先はイギリスのチェスター)を実施し、28名の生徒が参加、成功裏に終わった。

# 4. 学校評価について

# ① 自己評価

年度末に教科指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した(資料1)。評価項目は昨年と同じである。各項目の評価結果には若干の変動はあるが、全体として顕著な変化は見られなかった。

#### (資料1) 2019年度 学校評価

## I 評価項目と評価の方法

#### (1) 評価項目の設定

「教科指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核的分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

## (2) 評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

## Ⅱ 評価結果

評価項目	評価
A教科指導	
①総合的に年度当初の目標が達成されているか	4. 0
②生徒の学力、意欲、進路志望に照らして適切な学習目標が設定	4. 0
されているか	
③設定した学習内容の水準や進度が保たれているか	4. 1

④目標とした内容が定着しているか	3.	7
⑤同一教科・科目の前後する学年における学習内容や担当者との	4.	0
連携がとれているか		
B校務分掌		
①担当業務が適切に処理されているか	4.	0
②関係者・学年・分掌との連絡・連携が円滑に行われているか	4.	0
C担任業務		
①生徒とのコミュニケーションが取れているか	3.	9
②保護者との連携がとれているか	3.	8
③学年内の連携がとれているか	4.	3
⑤数科担任との連絡がとれているか	4.	0

## (3) 神戸海星女子学院小学校

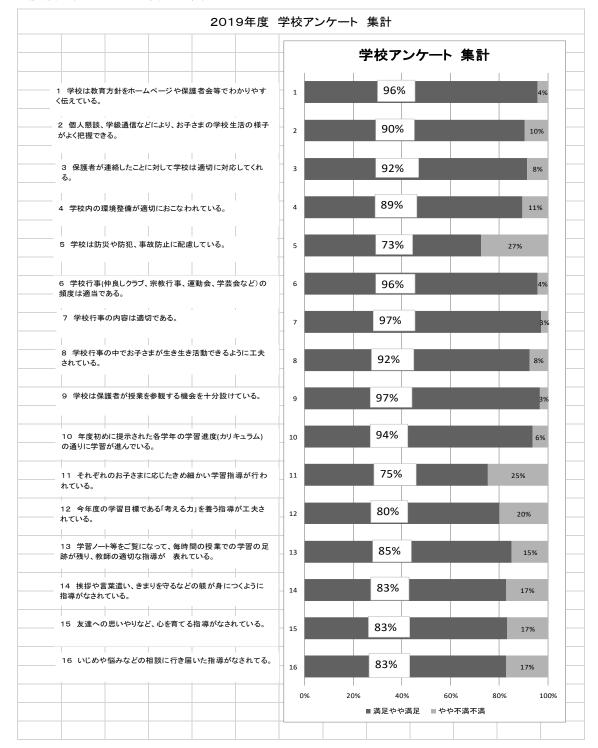
#### 1. 小学校広報活動と児童募集について

入学者確保のための広報活動の一つとして、幼児教室4か所(奨学社、ぷらいまりー、く ま教育、チャイルドアイズ)と海星マリア幼稚園を訪問し、2020年度入試に向けて海星 小学校の特色や一貫教育について説明し、2019年度入試のペーパーテスト問題につい ての解説を行った。また、今年度は転入募集要項や行事ポスターを数多くの幼児教室を回り、 案内の依頼を行った。4月に、第9回目の「関西私立小学校展」が阪急うめだ本店で行われ、 本校のブースを訪れた方に、本校の特色や入試内容についての説明を行った。12月に、第 7回の「兵庫県私立小学校フェア」が兵庫県の私学11校が集まり、生田神社会館で行われ た。海星の受験を考えている保護者を対象に、本校の特色や少人数2クラス制のよさなどの 説明を行った。2020年2月に、第5回の「兵庫県私立小学校 個別進学相談会」が、甲 南大学西宮キャンパスで行われた。新型コロナウイルスの影響で参加者は少なかったが、2 021年度入試に向けて、西宮、芦屋、神戸市などに住む年中以下の保護者の方が来場し、 本校の特色や新しい取り組みなどの説明を行った。受験希望者に対して、学校での説明会を 5月と6月の2回行った。第1回目の5月は、宗教行事である「マリア様をたたえる会」を 見ていただき、そのあと説明会を行った。第2回目の6月は、1時間の授業公開と学校説明 を行った。授業公開の間、3度目の取り組みとして園児に対して理科工作や図工などの活動 を学校体験として行った。本校の特色である宗教行事や授業内容、児童の学習している様子、 教室の様子などを実際に見ていただく良い機会になった。

その他の広報活動としては、上記の学校行事チラシを4つ作成し、幼児教室を回り案内を依頼した。また、学校説明会、入学試験のポスターを作成した。2020年入試は、本校では48名の募集に対し58名の志願者があり、51名の合格者を出した。2020年度の児童数は、1年生51名、2年生45名、3年生48名、4年生47名、5年生50名、6年生50名、計291名となった。

#### 2. 学校評価について

毎年3月に、保護者に対して無記名で学校評価に対するアンケートを実施している。238名の保護者から回答をいただいた。(回収率91%)(資料1) 2019年度は、「防災、防犯、事故防止」への不安の声を、昨年度と同様いただいた。子どもが発信できる携帯電話の所持や登下校の安全や防犯面についての指導体制を作っていきたい。また、「それぞれの子どもに応じたきめ細かい学習指導」について、昨年と同様8割を切った。教員研修の充実と補習について自ら考える力を伸ばせるものを再構築していく。生活面については、あいさつや言葉遣い、友達への思いやりなど、昨年度より10ポイント近く上がった。さらに、一人一人が伸び伸びと楽しく学校生活を送れるよう、「心の教育」に力を入れていく。保護者による学校アンケートは、海星の教育を考える良い機会になっている。



(資料1) 2019年度 学校アンケート

次に、自己評価についてである。年度末に学習指導・生活指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した。

(資料2) 結果については、職員会議で教員に周知を図った。

# (資料2) 2019年度 学校評価

# I 評価項目と評価の方法

# (1) 評価項目の設定

「学習指導・生活指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核分野と捉え、それぞれについて評価項目を設定した。

# (2) 評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

# Ⅱ 評価結果

Ш	評価結果	
	評価項目	評価
A	学習指導・生活指導	
1	総合的に年度当初の目標が達成されているか。	3. 5
2	個々の児童の学力に応じた適切な学習目標を設定し、	3. 5
	適切な指導をしているか。	
3	教材研究を常に行い、よりよい授業ができるよう工夫しているか。	3. 9
4	設定した学習進度(カリキュラム)が保たれているか。	3.8
(5)	個々の児童の学習内容が定着しているか。	3. 9
6	目標とした学習内容が定着しているか。	3.4
7	同一教科の前後する学年における学習内容について、	3.6
	担当者との連携が取れているか。	
8	基本的なしつけやルールの指導に努めているか。	4. 1
9	豊かな人間関係作りに向けた指導に心掛けているか。	4. 2
10	授業研究など校内外の研修に向上心を持って取り組んでいるか。	3. 9
В	校務分掌	
1	分掌した校務を主体的に、的確に遂行しているか。	4. 0
2	関係者・学年・他の分掌との連絡、連携が円滑に行われているか。	3.6
$\mathbf{C}$	担任業務	
1	保護者との連絡を密にし、児童の実態把握に努め、信頼関係を築いているか	$e_{\circ}$ 4. 2
2	学級経営方針を明確にし、きめ細やかな指導を行っているか。	4. 2
3	専科教員との連携が取れているか。	4. 2

#### 3. 教育について

# ① 特色ある教育

#### (ア) 宗教教育

全校生毎週1時間の宗教の時間や、週1回(金)の礼拝朝礼、毎日の朝礼終礼などお祈りをする習慣を大切に指導した。全校朝礼では、教師が毎週交代で、その日の祈りと主の祈りを児童と一緒に唱えた。その他にも「マリア様をたたえる会」「創立記念ミサ」「クリスマス会」「感謝のミサ」などの宗教行事を通して宗教教育を行った。

## (イ) 外国語(英語)教育

2019年度は、1, 2年生は週に3.5時間、 $3\sim6$ 年生は週に3時間英語の授業を行った。1.5時間( $3\sim6$ 年生は1時間)は音声学に基づいた発音などを中心とし、2時間はネイティブスピーカーによるコミュニケーションを中心とする指導を行った。コミュニケーションの授業には専任の英語教員とネイティブ教員に加え、学級担任が加わり三人体制で授業を行った。

#### (ウ) 福祉教育

毎年5年生が訪問している老人ホーム (大池サンホーム)を今年度も訪問した。訪問までの数カ月間に、車いす体験の実施や、お年寄りに喜んでもらえる出しものや、手作りプレゼントなどを用意した。訪問当日は車いすを押したり、お年寄りの手を取って、一緒に出しもの会場までお連れしたり、練習してきた出しものを見ていただいたりして、充実した一日を過ごすことができた。1年に1度の訪問であるため、お年寄りの方々も、とても楽しみにしてくださるとのことである。

#### (エ)「仲良しクラブ」活動

異学年集団でのボランティア活動や自然体験、制作活動を通し、情操豊かな子どもを育成し、高学年にはリーダーとしての自覚を身につけさせることを目的とし、年間24時間実施した。

・1年生歓迎会	1 時間
<ul><li>・春の遠足(須磨浦山上遊園)</li></ul>	6時間
・小運動会	4時間
<ul><li>読書祭り</li></ul>	2時間
・野外活動	6時間
• 校外清掃	2時間
・海星祭り	2時間
(6年生とのお別れ会 中止	1 時間)

#### ② 今年度の取り組み

- (ア)保護者の方に学校のことをさらによく理解していただくと同時に、保護者同士のつながりを深めることを目的に、定期的な保護者会(4月と7月)以外にも、12月に学年保護者会、3月に学級保護者会を行った。
- (イ)学級間や、低学年・中学年・高学年の教員間の情報交換を活発にするため、月に2回 火曜日の放課後に学年部会を行い、職員会議でそれぞれの部会で話し合われたことを報告 し合った。
- (ウ) 1月に3日間、参観週間を設け、保護者の方に自由に授業参観をしていただいた。参 観週間と合わせて、小学校校舎内で図工展を行った。明るく広い場所で展示ができ、見やす く見ごたえがあると、保護者や受験を考えている方々、児童からも好評であった。
- (エ) 今年度は、漢字検定で「最優秀団体賞」を受賞した。
- (オ)8月には、6年生の希望者11名が参加して、ニュージーランド語学研修を行った。 現地の家庭にホームステイし、小学校の授業に参加し、バディの友達 と一緒に学習した。
- (カ) フランシスコ教皇の来日に合わせ、東京ドームでの「教皇ミサ」に 5, 6年生の希望者 1 3名が参加した。

#### (キ) 学年ごとの宿泊を伴う行事

学年	合宿など	場所	体験内容	泊数
2	学校合宿	小学校校舎	家族を離れての共同生活 王子動物園、学校のプール	1泊2日
3	校外合宿	神戸市立自然の 家(六甲)	カヌー、アーチェリー、ネイチ ャーハイクなど、自然の中での 活動	1泊2日
4	淡路島合宿	国立淡路青少年 交流の家	砂浜での活動・集団生活 規律を守る・仲間づくり	2泊3日
5	スキー合宿	合宿 鉢伏高原 スキー技術の向上 冬の自然体験・仲間づくり		3泊4日
6	修学旅行	沖縄方面	伊江島民泊(異文化体験) 平和学習・沖縄の歴史	3泊4日

## (4) 神戸海星女子学院マリア幼稚園

#### 1. 園児数の状況について

2019年4月1日の園児数は年長児95名、年中児91名、年少児92名、満3歳児0名合計278名でスタートした。2020年3月1日現在の園児数は年長児94名、年中児89名、年少児92名、満3歳児38名の計313名であった。

# 2. 幼稚園に関する社会情勢について

#### ① 少子高齢化

少子高齢化が進む。西宮市も北部地区、西宮浜地区、鳴尾地区の少子化が深刻になっている。

#### ② 幼稚園教諭、保育士人材不足

女性の社会進出が進み、就労しやすい社会になってきた。そのため長時間保育の施設が増加。結果、幼稚園教諭、保育士が足りない状況である。西宮市は待機児童全国ワースト5に入っている。 夙川地域も待機児童が市内でも最も多い。

#### ③ 幼児教育無償化

2019 年 10 月より消費税率を 8 %から 1 0 %に上げその増収分で、幼児教育・保育の無償化を全面的に実施した。年収の高低に関わらず幼稚園や保育所に通う  $3\sim5$  歳すべての子どもと、保育所に通う  $0\sim2$  歳の住民税非課税世帯の子どもについて利用料を 25700 円を上限とし無償化とする。マリア幼稚園の場合、保育料 30000 円のうち 25700 円まで無償化、就労者は預かり保育の料金 1 日 1000 円のうち 450 円補助される。また、第 3 子以降には給食の副食代(マリア幼稚園の場合 1 食 225 円)も補助される。

## 3. 幼稚園の教育活動

#### ① 行事

# (ア) 入園の日

4月8日(月)新入園児と前年度満3歳児合計92名、保育室で親子でクラスで顔あわせをし、記念撮影、ホール舞台での紹介をした。ほとんどの家庭が両親参加であった。

## (イ) 親子遠足

4月24日(水)新西宮ヨットハーバーでクラス毎に集まり親子でゲームをして親睦を図った。

#### (ウ) A 組キャンプ

7月11日(木)~12日(金)マリア幼稚園でお泊り保育をした。大阪のキッズプラザで様々な活動をし、園に戻ってからはプール、スイカ割り、水鉄砲、キャンプファイヤー、花火、夜のスタンプラリーをした。シャワーもする。寝具の準備や片づけも子どもたちで行う。翌日はそれぞれのクラスで子どもたちが考えた朝食を作り、子どもたち自身でできる生活を楽しんだ。子どもたちにとっては有意義な2日間となった。親元を離れ一晩友達と過ごす経験は子どもたちにとって大きな自信となった。

# (エ) 夏季アフタークラス

7月末まで希望者に夏季保育を行う。延べ175名が参加をした。

7月22日(月)~24日(水) 10000円

7月29日(月)~31日(水) 10000円

基本 9~15 時 朝延長 8 時~9 時 200 円 夕延長 13 時~17 時まで 400 円

#### (才) 参観日

2 学期は行事が多く、保護者が園に来ていただく機会が多いので、1 学期と 3 学期に設定をした。一緒に子どもと遊ぶ参加型と設定保育を見る参観型がありそれぞれ保護者の希望に合わせた。ほとんどの家庭が参加した。

# (カ) スポーツデー

10月12日(土)当日大型台風のため、翌日の10月13日(日)に延期してマリア幼稚園上の園庭で行った。学年別競技やクラス別競技等子どもに無理なく楽しめる競技をした。

#### (キ) クラス遠足

	もも・あじさい	すずらん・ふじ	ちゅうりっぷ・ゆり	ひまわり・やまぶき
2学期	10月4日	9月30日	9月27日	9月19日
場所	甲山森林公園	甲山森林公園	北山植物園	甲山森林公園
3学期	2月10日	3月予定	2月21日	1月31日
場所	王子動物園	コロナ休園のため中止	王子動物園	王子動物園

今まで園バスで遠くまで行くことが多かったが、往復に時間がかかり、渋滞、帰りのバス時間 (14 時) も考慮すると現地での活動時間が少なかった。今年度の秋の遠足は近くの山に行き自然の中で「秋さがし」をし、身体を動かし楽しんだ。

#### (ク) 七五三

子どもの成長を神様に感謝しお祝いした。夙川教会に行き梅原神父様、サック神父様に一人ずつ祝福していただき、千歳飴をいただいた。

#### (ケ) 聖劇

12月3日~6日、一日2クラスずつクラス毎にイエス様の降誕劇をし、ご家族と一緒んクリスマスの喜びを分かち合った。年長児が中心となりクラス全員で取り組むことが出来た。

#### (コ) クリスマスみ言葉の祭儀

12月21日(土) 夙川教会で園児とご家族の方(希望者のみ)と梅原神父様司式の下でクリスマスみ言葉の祭儀をした。サック神父様、エリック神父様に祝福をしていただく。参加者415名。閉祭の歌を父母の会コーラスが「ハレルヤ」を合唱。

#### (サ) おもちつき

1月15日(水)年長児の保護者に手伝って頂きながら園庭で行った。保護者127名参加。 もち米30キロ。

# (シ) 卒園の日

新型コロナウイルス感染症流行のため 3 月 3 日(火)より休園となった。そのため練習なしのプログラムを準備する。3 月 20 日(祝)当日は子どもたちの動揺をなくすため 1 時間早く登園して担任より簡単な流れの説明を聞き、ホールで確認練習をした。10 時 30 分開式で、保護者も 1 家庭 1 名と制限をし、マスク着用。窓やドアは全開放で行い、証書授与の時の握手、退場の時のハイタッチは省略した。父親は式終了時間より外で待機をした。園庭で待機しホールから流れる子どもの歌声に耳を傾けていた。例年は式の後、各クラスでお別れ会をしているが、今回は保育室には入らずウッドデッキで簡単なお別れの挨拶をした。

# ② 園庭整備

- ・上の園庭に土俵を作る。いつでも子ども同士で相撲ができるようになる。
- ・上の園庭の北側を自動灌水付きの芝生にする
- ・下の園庭のアーケードの下が土であったが、コルクチップ舗装する
- ・夏が厳しい暑さになるので、下の園庭の待合い場所、アーケードにミストを設置する。
- ・東側の森を整備し、遊び場にした。急勾配だが子どもたちは元気いっぱい遊ぶ。

#### 4. 募集活動

# ① 「幼稚園で遊ぼう」

子育て支援の一つとして年間を通じて未就園児の親子リトミックを実施している。 マリア幼稚園に興味がある親子に来ていただき身体を動かせて遊び、園の雰囲気を見てい ただく。

ホームページで掲示をして電話申し込み制をした。一日に20組限定、先着順で受け付けた。 4月22日、5月10日、6月3日、7月1日、9月18日、9月25日、10月23日、

#### 12月9日、12月13日、1月29日、2月18日実施

## ② 「幼稚園で遊ぼう」と幼稚園見学会

9月は入園募集前の時期になるので、見学会を兼ねる。9月18日(水)は3回、9月25日(水)は2回親子リトミックをする。その後、園舎、園庭を案内し子どもたちの様子を見てマリア幼稚園入園を検討していただく。

### ③ 説明会

ホームページで説明会の日程を知らせインターネットで希望者の申し込みを受け付ける。 申し込することによって当日の入園証代わりになる。幼稚園の方針、行事、保育料、預かり 保育などについて説明をする。

- ・9月9日(月) 満3歳児入園説明会 参加数 83名
- · 9月11日 (水) 3歳児入園説明会 参加数 132名
- · 9月20日(金) 3歳児入園説明会 参加数 91名

#### ④ 入園考查

10月1日(火)8時から8時30分まで願書受付。

面接考査は親子5組1グループでする。

- 8時から9時30分まで弟妹、つくし組の面接。
- 9時30分から9時50分まで満3歳児入園考査。
- 9時50分から14時30分まで3歳児入園の面接考査する。

#### ⑤ 2020年度入園募集結果

• 3 歳児入園

出願数 129 名 (男 57 名、女 72 名) 合格者 67 名 (男 34 名、女 33 名) 弟妹、つくし 組含む

・満3歳児入園

出願数 56名 (男 30名、女 26名) 合格者 28名 (男 15名、女 13名) 弟妹含む

#### 5. 求人

- ① 7月7日(日)兵庫県私立幼稚園協会、保育士協会合同の就職フェア(神戸国際展示場) に初めて参加した。マリア幼稚園には15人ほどブースに来訪、説明した。
- ② 求人票を幅広く各大学に出した。直接手渡しできるところには伺ってお願いした。
- ③ 求人をホームページでも広く募集した。今まで採用が無かった大学の学生と出会えた。
- 6. その他

- ① 5月に大津で散歩中の保育園児を巻き込む交通事故が起こった。また近隣でも園児の交通事故が起こり保護者は保育中の子どもの交通事故を心配するようになった。警備を強化するため 6 月より警備員を日本建築サービスに外注。警備ボックスを設置し終日西門ロータリーに常駐する警備員を配置した。朝アフターからアフター終了までしっかりと警備体制ができ安心することができた。
- ② 新型コロナ感染症による休園中の幼稚園の対応
- ・2月27日(金) 政府より、全国の小中高等学校に対し3月2日からの臨時休校の要請がなされた。
- ・3月2日(月) 幼稚園も2日(月)在園生の終園日とし急遽手紙や荷物を持ち帰る。
- ・3月3日(火) 西宮市立学校が休校となった。幼稚園も休園とした。
- ・3月3日 $\sim$ 19日 預かり保育は2号認定(就労者)の子どものみアフタークラスで預かる。

8:00~18:00 13日間 延べ292名参加

- ・3月20日(祝) 卒園式。 練習なし簡素化、縮小で行う。卒園児全員出席。
- ・3月25日(水) 園のお手紙、各クラスのお手紙、クラスたよりを各家庭に郵送した。
- ・3月つくし組(2歳児保育)の会費は徴収しない。
- ・3月分在園生の保育料、給食費、バス代ともに徴収する。

# (5) 施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明 主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地	施設等	面積等
	大学本館	6,559 m <sup>2</sup>
	大学2号館	2,149 m <sup>2</sup>
	大学図書館	4,047 m <sup>2</sup>
神戸市灘区青谷町	中高校舎、講堂	10,627 m <sup>2</sup>
	中高食堂ロッカー棟	659 m²
	体育館	1,675 m²
	小学校校舎	3,316 m²
西宮市木津山町	幼稚園園舎	1,725 m²

- ② 主な施設設備の取得又は処分計画及びその進捗状況
  - イ) 大学 本館耐震改修工事 (2019年9月30日済)